

平成29年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

児童虐待の地域及び国際比較のためのデータベース構築に関する調査研究

社会福祉法人恩賜財団 母子愛育会

児童虐待の地域及び国際比較のためのデータベース構築に関する調査研究として、以下の課題に取り組んだ。

- ① 児童虐待に関するデータ収集・解析を行っている海外機関へのヒアリング調査
米国とカナダの以下の機関に対して連絡を取り、ヒアリング調査の許可を得て、情報収集を行った。対象は以下の各機関となっている。1) U.S. Department of Health & Human Services における National Child Abuse and Neglect Data System (NCANDS) (米国)、2) National Data Archive on Child Abuse and Neglect (NDACAN) (米国)、3) Child Welfare information Gateway (米国)、4) Public Health Agency of Canada (PHAC) (カナダ)、5) Ontario Child Abuse and Neglect Data System (OCANDS) (カナダ)
- ② 国内の多機関連携の好事例に関するヒアリング調査
以下の5地域における連携システムについてヒアリング調査を行った。1) 奈良県及び市の要保護児童対策地域協議会の活動、2) 千葉県と市町村との連携、3) 神奈川県相模原市における児童相談所・区の連携、4) 岡山市での取り組み、5) 三重県におけるリスクアセスメントシステム
- ③ 全国の児童相談所を対象としたアンケート調査
National Child Abuse and Neglect Data System (NCANDS) のデータ収集のためのコードブックである Agency File Codebook と Child File Codebook の項目を、国内で調査可能な形に修正をしてアンケートを作成し、郵送調査を行った。
対象としては、各都道府県の中央児童相談所 (47 施設)、政令市の児童相談所 (20 施設)、中核市の児童相談所 (2 施設) の計 69 施設とした (複数存在している場合は 1 箇所を選出)。回答項目としては、各項目に関して「現時点でのデータ収集状況」「項目の重要性」「データの共有可能範囲」について求めた。
- ④ 小児虐待のスクリーニング方法に関するシステマティックレビュー
電子データベース PubMed と医中誌に 2017 年 12 月までに登録された小児虐待のスクリーニング方法に関する英語及び日本語の論文の検索を行った。

その上で、今後の我が国における児童虐待のためのデータベース構築に向けての提言をおこなった。